

# 平成15年度試験研究成果書

区分	指導	題名	りんご「きおう」に対するジクロルプロップ液剤の落果防止効果（追補）		
〔要約〕ジクロルプロップ液剤の1000倍収穫開始予定日の25日前散布の落果防止効果は15日前散布と同等に高い。					
キーワード	りんご	きおう	落果防止剤		園芸畑作部 果樹研究室

## 1. 背景とねらい

りんご「きおう」に対するジクロルプロップ液剤(商品名:ストップボール液剤)使用方法については平成11年度の試験研究成果として報告しており、その中で散布時期を収穫開始予定日の15日前(平年の暦日、県中部を基準として8月15~20日)としているところである。

一方「きおう」は、条件によって内部裂果を生じ、その果実は正常果より極端に早く成熟することがある。このため、裂果の多発園では正常果を対象とした通常の収穫15日前散布をした場合、農薬使用基準を越える場合が想定される。

そこで、通常散布より早く散布した場合の、落果防止効果と果実品質に及ぼす影響についてまとめた。

## 2. 成果の内容

- (1) ジクロルプロップ液剤の1000倍散布の落果防止効果は収穫開始予定日の25日前散布でも効果は高く、散布後40日以上効果は持続する。(表1、図1)
- (2) 果実の内部品質は、収穫開始予定日の25~15日前の範囲であれば、散布による影響はない。(表2)

## 3. 成果活用上の留意事項

- (1) 散布により果実肥大が抑制される傾向である。(表1)
- (2) 散布により裂果果の発生が抑制される傾向である。(表1)
- (3) 散布により成熟が促進される傾向である。(図2)
- (4) ジクロルプロップ液剤の散布により内部裂果等の障害果も落果しないので、成熟期が早いなど障害の懸念される果実は、正常化と区別して収穫し、販売上支障のないようにする。
- (5) ジクロルプロップ液剤の農薬使用基準は、収穫開始予定日の25日前~15日前散布であるので遵守する。
- (6) その他「きおう」に対するジクロルプロップ液剤の使用方法については、平成11年度試験研究成果「りんご「きおう」に対するジクロルプロップ液剤の効果」を参照のこと。

## 4. 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者: 県下全域りんご栽培指導者
- (2) 期待される活用効果: 落果防止剤の適正使用につながる。

## 5. 当該事項に係る試験研究課題

- (850) 果樹に対する植調剤等の利用法
- (2000) 果樹の植調剤及び資材の効果的使用法

## 6. 参考文献・資料

- 平成11、14年度 岩手県農業研究センター果樹試験成績書(一部未定稿)
- 平成11年度試験研究成果「りんご「きおう」に対するジクロルプロップ液剤の落果防止効果」

## 7. 試験成績の概要(具体的なデータ)

表1 落果率 (H.15)

試験区	調査果数 (果)	落果率 (%)	全果平均果重(g)	全果内部裂果発生率 (%)
8/5 (25 日前) 1 回	452	0.2	249	49.7
8/10(20 日前) 1 回	439	0.4	272	44.5
8/15(15 日前) 1 回	410	4.0	255	58.3
8/5+15(25+15 日前)2 回	494	0.0	247	29.9
無処理	539	46.3	261	55.9

約4日おきに加チャート指数2.5以上の果実を収穫し収穫果とし、収穫時点で落果していた果実を落果果として、落果率を求めた。

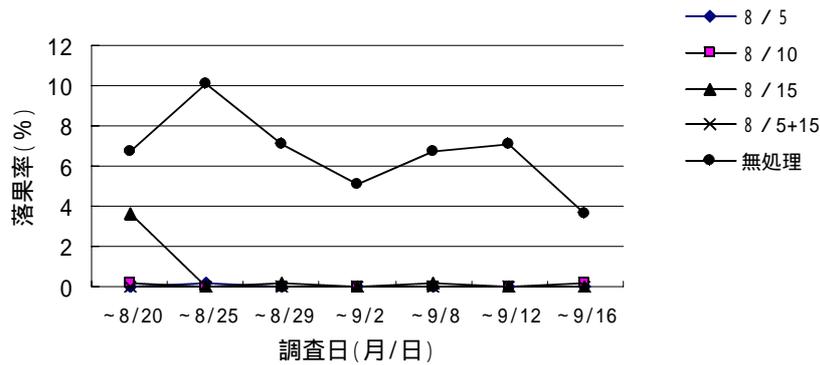


図1 経時別落果率 (H.15)

表2 果実品質 (H.15)

試験区	分析果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	タンニン反応 (指数)	果皮色 (指数)
8/5 (25 日前) 1 回	267	13.0	12.9	0.31	0.9	3.4
8/10(20 日前) 1 回	276	12.8	12.8	0.33	1.3	3.3
8/15(15 日前) 1 回	264	13.0	12.6	0.35	1.5	3.2
8/5+15(25+15 日前) 2 回	263	13.6	13.0	0.35	1.4	3.4
無処理	268	13.3	12.7	0.34	1.4	3.1

各区とも 8/20、8/29、9/8 収穫果の分析値の平均値

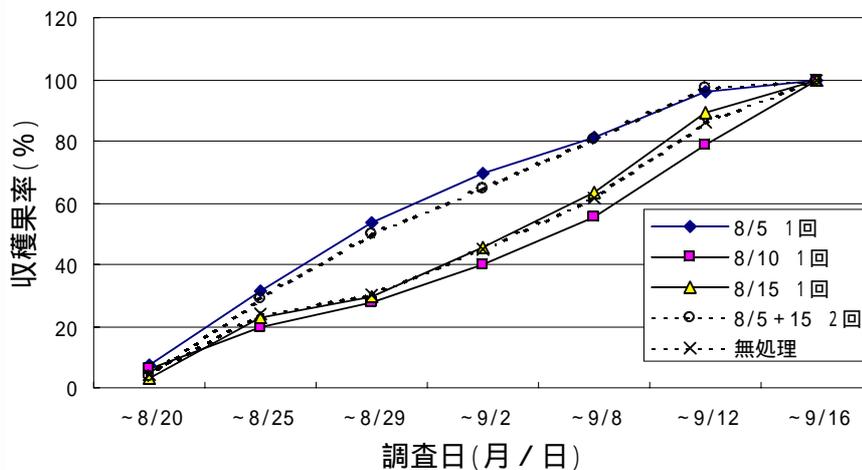


図2 経時別累積収穫果率 (H.15)